



日本 OECD 共同研究月間
～価値観アップデート～

過去を超え、常識を超え、壁を超えて、新しいミライを再構築

“OECD Learning & Teaching Compass: MindShift through Upgrading Perspectives in Education”

主催: 東京学芸大学, 経済協力開発機構(OECD)の共同開催
後援: 文部科学省、外務省、こども家庭庁

行事報告書

■テーマと目標

本行事は、2023年3月に、「本気でインクルーシブ」をテーマに実施した「日本OECD共同研究 国際共創プロジェクト: 壁のないあそび場-bA- 第2回ワークショップ(日本OECD共同研究月間)」の継続行事です。

戦争や紛争、自然災害が世界各地で発生し、かつ生成AIなどの新しい技術が急速に発展している中で未来の教育を描いていくためには、教育制度や教育方法のみについて議論するのではなく、これらの背景にある「価値観」(生徒像、教師像、学校像、授業観、教員研修観、教育観など)そのものを様々な面から問い直していく必要があることから、今年の共同研究月間は「～価値観アップデート～過去を超え、常識を超え、壁を超えて、新しいミライを再構築」をテーマとしました。

今年は日本がOECDに加盟して60周年に当たるとともに、「子どもの権利条約」を日本が批准して30年目の年にあたります。この記念すべき年に当たって、日本とOECDで連携し、こどもや若者、教員や研究者など関係者の皆様の参画を広く得つつ、ともに学びあいながらネットワーク形成に取り組むことを目指しました。

今回の共同研究月間を足掛かりに、今後の一連のイベントとして、8月能登震災からの復興教育支援に向けたワークショップの開催、10月OECD Education 2030 グローバルフォーラムの日本でのホスト、12月OECDパリ本部での生徒教師国際サミットへの日本チーム参加、等を予定しており、国際共創を通じた日本による貢献と、更なる価値観のアップデートに向けての取組を進めて参ります。

■行事の期間: 2024年3月2日～31日

■主な成果

期間中21個のワークショップ(別紙参照)を開催しました。また期間後も、フォローアップ・ワークショップを複数開催しました。

共同研究月間中に開催された21個のワークショップには、のべ約1,500名(国内参加者: 約1,000名、海外参加者: 約500名)を超える参加者が参加くださいました。

参加者は、幼児、小学生、中高生、大学生・院生、教師、研究者、NPO/企業、自治体・省庁関係者など多岐にわたり、国内の参加地域は、北海道、岩手、福島、宮城、山形、群馬、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川、静岡、石川、福井、京都、大坂、兵庫、広島、島根、福岡、大分、鹿児島、熊本など、広域からご参加くださいました。

また海外の参加国・地域は、オーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、エストニア、デンマーク、アイルランド、イスラエル、イギリス、インド、インドネシア、モルドバ、チェコ、ポルトガル、トルコ、ウクライナ、シンガポール、カザフスタン、アメリカ、韓国など世界43か国・地域となりました。

目標として掲げた価値観のアップデートに関する主な成果は以下の通りです。

(1) 生徒像・教師像アップデート

◆3/15 ～国際連帯&グローバル・シティズンシップに向けたラーニング&ティーチングコンパス～

ウクライナ・トルコ・日本の3か国における人災や自然災害の中で、人はどのように生き、また、学校ではどのように学びを止めずに進めているのかについて、生徒および教員の声を聴き、災害の中における教育の取り組みを共有しました。司会であるスザンヌ・ディロン氏(the Future of Education and Skills 2030グローバル・フォーラム議長)と兒玉和夫氏(元OECD日本政府代表部特命全権大使、広島大学客員教授)のオープニングでの言葉は、すべての国のすべての人々の人権、尊厳、自己決定の原則を確認するとともに、災害や紛争の時代における平和と共感の言葉で参加者の心をつなげるものでした。続いて学校現場から、ウクライナでの学びを止めない取り組みや、ウクライナと日本の生徒の友好の深まり(ウクライナの生徒・前線にいる兵士に送られた「日本のカレー」や「暖かい手袋」と、お返しのウクライナの生徒たちからの手作りブレスレット)の報告、災害による環境破壊を緩和する可能性を秘めた農業における自然保護とイノベーションの例の紹介、また震災直後の能登やトルコでの実体験と希望の体験談を共有いただきました。これらは、学校のウェルビーイングを向上させ、国際的な連帯を強化するために、生徒のエージェンシーと教師のエージェンシーを発揮することの重要性を強調するものでありました。

最後に、アンドレアス・シュライヒャー氏(OECD教育スキル局長)は、災害による困難を克服しようと取り組む生徒と教師の素晴らしい行動力を強調し、自身と他の人々のためにより良い未来を改めて築こうとする方々の強さとレジリエンスを称賛しました。このワークショップの対話の内容は、OECD Education 2030が進める、Learning CompassとTeaching Compassを一体化するプロセスにも、反映されていく予定です。

参加者の声(一部抜粋):

・「このワークショップは、国際連帯のためにウクライナ、日本、トルコを支援するコミュニティの一員であると実感できる場となったと思いますか？」との問いに係る回答理由として:

- ・まったく知らなかった支援の実践例を、知ることができたため。
- ・各学校の思いが具体的な実践となり、発表することで広がっていくといいなと思っているから
- ・人災・自然災害やそれらにテクノロジーを用いて立ち向かうことについて、他人事ではないと思わされたため。

・「世界共通の課題(例えば戦争や自然災害など)について、考え直したり、深く考えたりする機会となったと思いますか？」との問いに係る回答について:

- ・天災と人災をわけて扱うのではなく、より広い視点から困難な状況にある人々、とりわけ子どもたちに光を当て、そこにおいて彼らが発揮しようとしている力を引き出し、また私達がそのような力から学び、勇気づけられる、そのような試みとして、今回のイベントを高く評価し、尽力された関係者、とりわけ、困難な状況の中から勇気ある発信をされた子どもたちに心から敬意を表したいと思います。
- ・教育現場からでも発信できることがあることがわかったから。

◆3/18『もしも教室にヤングケアラーの児童・生徒がいたら?』『新しい居場所のあり方は?』

近年注目が集まっている、ヤングケアラーと呼ばれる子どもたちの姿について、まず、研究者や現場で支援しているNPOの支援者から参加者に共有いただきました。その後、同級生となる可能性のある生徒たち、また教師、そして行政の視点から、まずは知り、何ができるのか、多様な参加者で対話を実施しました。また、不登校の小中学生が約30万人に上るなど、学校・教室に登校できない子どもが急増してる中、子どもの権利の視点、生活者の視点から、多様な子どもたちを支える新たな居場所の在り方を考えました。

参加者の声(一部抜粋)

・(教師)3月まで、公立小学校に勤務していました。ヤングケアラーを始め、配慮の必要な児童に、適切な支援をすることが難しかったです。悩み苦しみ、生きづらさを抱えている子どもたち・保護者がたくさんいます。誰もが少しでも生きやすい学校・地域・社会になれば...と思います。そのための活動をしていращやる方々がたくさんおられることを知り、明るい気持ちになりました。自分にどのようなことができるか、考えていきたいと思います。

・(教師)学校が、「先生(大人)の望む子どもを育成するところ」ではなく、「本当の意味で子どもの存在を大切に、子どもの幸せを創るところ」に変わる必要があると思います。学校は、まだまだ古い学校観・教師観・子ども観を持ち続けています。そのアップデートのためには、子どもの成長していく姿を見つめ、それをもとに語り合い喜び合うような教員研修を行っていきたいです。

・(高校生)サードプレイスと呼ばれる場をたまに利用するが、みんながイキイキとしていて学校や年齢を超えた交流の場になっている。学校でも保健室登校などがあるが、別室登校を2.5プレイスのように名づけ、カウンセラーや養護教諭、先生方、生徒が関われるような場を作れたらいいと思う。

◆3/23 おさんぽしながら楽しく学ぶ IN 皇居!“見方”が変わると“世界”が変わる～苦手教科があってもいいじゃん?～

「苦手な教科を好きになってほしい」という生徒同士の思いやりから始まった、様々な教科の「見方・考え方」を学んでいく場を、生徒自身が企画し運営したワークショップ。あえて「おさんぽ」という日常の生活を選び、「苦手な教科克服」といった時に、お金をかけずとも、自然に教科を好きになる「種」は、日常のどこにでも落ちていることを体感しました。立川学園から聴覚障害部門の生徒さんたちも参加してくれました。また教師・大人の参加者は、「教師・大人が教え込むおさんぽ」ではなく、「ただただ、生徒自身の発想・着想に寄り添う時間」を通じて、教師や大人の皆様も、生徒の視点から学んでいく場としました。この生徒による、おさんぽを通じた見方・考え方のワークショップは、今後もシリーズ化して開催していく予定です。

参加者の声(一部抜粋)

・(教師)体育のお散歩めがねでは、競走する人、それを見て楽しむ人がグループ内で自然発生し、体育に関する各々が感じる良さや関わり方を全員が発見することができました。他の教科のお散歩めがねでも、普段見えないものが見え、大変勉強になりました。

(2)学校像・居場所観アップデート

◆3/2 :災害時のこどもの居場所観アップデート

東日本大震災における支援者からの教訓を含め、大災害時の子ども支援のあり方について、報告と話題提供がなされ、新たな行動を起こすための手がかりを参加者が得る機会となりました。今後も、能登半島地震や東日本大震災、その他の大災害時における子ども・若者の支援に関する実践と研究を促進し、更に対話を深める機会を設けて、災害時の子ども・若者支援活動を、継続・発展させて行く予定です。

◆3/18『もしも教室にヤングケアラーの児童・生徒がいたら？』『新しい居場所のあり方は？』

上記(1)生徒像・教師像アップデート参照

このワークショップをスタートとして、引き続き、居場所事業と学校の学びの往還(質保障含む)や、災害などに備えた緊急対応と復興の仕組みづくり、被災状況下の子どものケアに関して、対話、活動を継続していく予定です。

(3)授業観アップデート

◆3/2: 高校探究プロジェクトシンポジウム「瞳輝く学びの実装化」

2021年12月から開始した高校探究プロジェクトでは、各教科における探究的な学びと「総合的な探究の時間」などの教科横断の探究の、双方を射程に入れた様々なカタチのWSやイベント等を共創パートナーと進めてきました。今回のシンポジウムでは、ここまでの活動の成果をパネルディスカッションの形で振り返り、いま一度「高校・授業文化のアップデート」はどうしたら進むのか、その方策を参加者で対話しました。この結果を踏まえ、2024年度以降は、これまでのWSを続けつつ、新たに、校内で探究教材をつくるWSや、いろいろな地域の指導主事が集まっての新しい研修など、引き続き「高校・授業文化のアップデート」を目指して活動を継続していきます。

参加者の声(一部抜粋):

- ・(生徒から)生徒たちも「探究」について学ぶ場があってもいいだろうし、教師も生徒に対して授業づくりの面白さや難しさを話してもいいのではないかと思います。教師と生徒のやり取りの中に、「探究」や「授業づくり」に関する話題があったら楽しそうだなと思います。
- ・(生徒から)島根県から参加した高校2年生です。たくさんの学びがありましたが、話の内容よりも、全国にはこんなにもたくさんの先生が熱や思いを持って、授業や探究活動を創っているということを知れたことに意味があったと思います。ブレイクアウトルームで他県の先生ともお話できてめちゃくちゃ嬉しかったです。
- ・(高校教師)社会の在り方・学び方が変化してきているのに、高等学校の授業が変化していないと言われている。現場の教員の意識もだいぶ変化してきている。あとは、どのような目線合わせをして実装していくかが、大きなカギを握っていると感じる。
- ・(指導主事)今日も高校生の変容の様子や実際の高校生の考えを聞いて、生徒たちが潜在的に持っている力を私達教員がわかっていない(または低く見ている)現状があるのではないかと感じました。・・・もっと生徒たちの思考が揺さぶられ、価値観が変わり、世界が広がるようなそんな授業が良い授業なのかなと思いました。

◆3/2『OECD Education 2030 保健体育カリキュラム国際調査』翻訳記念ワークショップ

今後の我が国の「保健体育教科観アップデート」を目指して、OECD Education2030国際比較カリキュラム報告書『保健体育教育の未来をつくる』の内容を、国内の関係者に広く知っていただき、教育の未来について多くの関係者がともに論議できる機会となるよう開催しました。また、参加者がスポーツの価値を考え、意見を交換することを通じて、スポーツの価値が共生社会や多様性のある社会づくり、すなわち個人や社会のウェルビーイングにどのように寄与するか、ラーニングコンパスの考え方を踏まえて、議論をする場となりました。

参加者の声(一部抜粋):

- ・(教師)体育における「できる」という観点は様々にあるということを学んだ。特に体育では学びに向かう力・人間性等で共生の視点がある。技能的な「できる」だけでなく、共生の視点での「できる」なども考えていく必要があり、教師や子どもたちの発想の転換が大切だと思った。
- ・(教師)高校生が登壇して、体育に対する意見を聞けてとても参考になりました。教育は子どもが中心になりますから、当事者の意見なしでは改革は前に進まないと感じました。
- ・(大学院生)生徒に伝える時には経験よりも科学的根拠を基に伝えることの大切さに気づいた。

◆3/10 北海道あそび座による『みんなでつくるをたのしもう』

OECD Education2030「プロジェクト無限大」や日本OECD共同研究「壁のないあそび場」に参加する北海道の生徒・教師・関係者が、自主的に集まり、未来の教育にむけて、「垣根を超えた対話」の場を実現しました。つくるを通して、保育・授業観、学校・教室観のアップデートを目指しました。

プログラム第1部では、幼児・小学生から大人まで、「私たちの Well-Being」を共創する場として、「みんなのウェルビーイングな公園」を考える共創に取り組みました。第2部は、教師を目指す学生たちが伴走した、月寒高校の生徒さんが授業の一環で取り組んだ「教室を変えてみる」探究授業からの報告を基に、ブロックやイラストを用いて、「私たちのための学びやすい未来の教室」を考える共創に取り組みました。第3部は、高校生が中心となって企画し、学校内でのジェンダーギャップを感じた瞬間についてディスカッションし、今後の未来に向けた解決法を探るグループワークを行いました。

◆3/23 おさんぼしながら楽しく学ぶ IN 皇居！”見方”が変わると”世界”が変わる～苦手教科があってもいいじゃん？～

上記(1)生徒像・教師像アップデート参照

(4)研修観アップデート

◆3/10『言葉の色を混ぜてみよう！言葉/会話/対話が変わると自分も変わる？！』

大学生が、共創パートナーの大人と企画したワークショップ。参加者に対話することの重要性を知ってもらい、今まで考えたことのない問いや対話から、もやもやを感じてもらい、ワークショップ後の参加者の活動につなげる。生徒・学生が多いワークショップになり、立場を超えた対話から参加者の中からは「今年度で一番ワクワク・もやもやしたWSだった」という回答をいただきました。

◆3/16『教師が創る、教師のための、教師研修ワークショップ、第一弾』
中高の教師が、保幼小の実践から学ぶ！先生から先生への「元気玉」プレゼント

教師自身が受けた研修をデザインした「教員研修のあたりまえ」に挑戦するワークショップです。海外の事例も国内の事例も「等しく学びあう互恵的な事例紹介」を基盤に対話を実施しました。また、「中高の先生」に、あえて「保幼小の事例」を紹介することで、自分の学校や園で対象にしている「子ども・児童・生徒」の年齢に関わらず、「人の育ち」(教育・保育)に携わる者として、普遍的に共通する「プロフェッショナルの眼」を保幼小中高大の保育・教育に関わる参加者で交差させました。この「教師が創る、教師のための、教師研修ワークショップ」は、今後もシリーズ化して開催していく予定です。

参加者の声(一部抜粋)：

- ・(保育園・幼稚園の保育士)中学校の教員だったら中学校だけ、幼稚園は幼児教育だけを見ているのではなく、子どもの学びというところで長い視点をもつための研修がとても重要であると改めて感じました。
- ・(大学生・院生)以前は研修と聞くと、強制的なイメージしかありませんでした。しかし今回のワークショップを通して、そもそも研修とは何のためにするものなのかというのを考え直すきっかけとなりました。
- ・(小学校教師)私たち教師が思っている以上に子どもたちは力を持っていて、それをどれだけ引き出せるかというのが教師楽しさでもあるのかなと感じました。大学生高校生の実践発表する姿がキラキラしていて、子どもも大人も楽しむってこういうことだなと思いました。
- ・(中学高校教師)与えられる研修から与える研修へ。身近なモヤモヤが研修になる。

◆3/30『教師が創る、教師のための、教師研修ワークショップ、第二弾』ヨーロッパの在外教育施設で働く私たちが創る学びのネットワーク～日本の“出島”から考える

本ワークショップは、日本国内でなく在外教育施設で勤務する先生方が企画運営したワークショップです。日本国内とは異なる文化・社会で過ごす生徒たちを紹介し、国境を超えた授業づくりや、エンパワーしあう教師コミュニティ創りを考えました。

(5)教育観・保育観・社会観・国家観アップデート

◆3/6『OECD EDUCATION 2030が示唆する未来の幼児教育・保育』

「幼児教育・保育観アップデート」「社会観アップデート」を目指したワークショップ。OECD Education 2030プロジェクトの視点から、世界の幼児教育・保育への示唆を共有後、未来の保育に関して全国から集まった認定こども園、幼稚園関係者と対話を実施しました。

参加者の声(一部抜粋)：

- ・今、幼児教育に求められる機能は何かを考え、発信していく事で、本当の意味での「こどもまんなか」の実現を目指す事が必要だと感じます。
- ・根本的な幸せとはなんなのか、人が生きる幸せを求めるヨーロッパと効率化を求め続ける日本の現状があり、日本の社会問題をどのように改善する必要があるのか考えることができた。
- ・“評価や結果を気にする”については、行事の運動会でのトラック上での姿、お遊戯会でのステージ上での姿を見る保護者と似ていると感じました。日々の姿や練習過程をきちんと発信して、伝えられるようにしたいです。
- ・OECDの考えを統計表も使いながら説明していただき、大変勉強になりました。日本人の考え(回り道をしない)は共感で、それは「現代の教育」にも現れていると感じます。心のゆとりを持ち、子ども達が本当にやりたいことを援助できるよう先生方も保護者も時間の余裕が必要なんだと思いました。これから園でみんなが幸せになれるように考え実行していきたいと思います。

◆3/9『日本の教育とウェルビーイングの未来について考えるシンポジウム』

OECDラーニングコンパスとウェルビーイングをテーマに、「新しい教育の未来を描く～ウェルビーイングが実現した教育に向けて～」社会観アップデート」を目指したシンポジウムです。OECD Education2030プロジェクトの考え方を、広く知っていただき、日本が向かおうとしている方向をグローバルな視野で捉える機会を提供しました。

参加者の声(一部抜粋)：

- ・ウェルビーイングはみんなで作っていくことが大事。何のために学ぶのか。幸せになるために学ぶのだと思います。次年度は自分の教える教科(数学)を通してウェルビーイングを探していきます。
- ・(ウクライナでの)核シェルターの学校は衝撃でした。ウェルビーイングについて、改めて考えることができました。
- ・OECDが経済でなく、より良き生活を人々が送れるようになるには、という視点で世界をみているということ。市民の社会参加の度合いなど含めて興味深かったです。包括的にWell-beingや教育、社会、世界、という視点で考える機会になったことが、よかったです。
- ・現場においても、教室においても、人の芽を潰してはいないか、のびのびできているか、キラキラしているか、人間力が求められているんだなと感じます。

◆3/22『ウェルビーイングと教育』～今問い直す「社会の豊かさ」&「日本の教育」の再価値付け～

社会共通資本とは？GDPでは捉えられない豊かさの指標とは？ウェルビーイング溢れる未来を現実にする教育とは？新たな教育投資を考える仕組みとは？教育振興基本計画にある「日本社会に根ざしたウェルビーイング」「教育投資の在り方」など、今後の教育の在り方について、教育の観点のみでなく、経済学など教育以外の観点も含め、学際的に考える場を提供しました。

参加者の声(一部抜粋):

- ・豊かさといえば、物質的なものと心が満たされている状態のことだと思っていましたが、ワクワクしながら学ぶことも豊かさなのだと感じました。
- ・群馬県の取り組みや鎌倉市の取り組みを聞くことで、本気で教育に取り組もうとするなら手立てはあること。そして教育によって社会が変わることができることを感じました。

上記の日本OECD共同研究に基づくワークショップのほか、OECD Education2030が主催したワークショップにおいては、通常、その参加者は同プロジェクトの関係者に限られるところ、日本からは、日本OECD共同研究の枠組みを通じて、一般の教員や生徒、研究者などが特別にアクセスすることができ、世界最前線の教育議論に参画しました。別紙のとおり、様々な国々からの多様な参加者が、教員養成や研修、AIによる教育への影響、教員・生徒のウェルビーイングなど様々なテーマを基に、未来の教育の姿を描くべく対話を行いました。

■共創パートナーの皆様

団体/組織

- 一般社団法人東日本大震災子ども・若者支援センター
- 高校探究プロジェクト
- 日本体育科教育学会
- 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構
- 全日本私立幼稚園連合会の「こどもまんなかproject」
- 津屋崎ランチ
- 北海道あそび座
- わが町にしなり子育てネット事務局、NPO法人子育て運動えん
- 一般社団法人栃木県若年者支援機構 代表理事・高根沢町教育委員会教育委員
- 荒川子ども応援ネットワーク・一般社団法人子ども村ホッとステーション

以下から、ご登壇者が参画:

学校関係者

- 第25小学校(ウクライナ)
- 泉大津市立小津中学校(日本)
- エキュメノポリス(日本)
- ナロディチ高等学校& オヴルチ第3中学校 (ウクライナ)
- 大分県立大分東高等学校(日本)
- ニメット・ファフリ・エクシズ職業技術アナトリア高等学校(トルコ)
- 石川県立能登高等学校
- 石川県立輪島高等学校
- 群馬県高崎市立並榎中学校
- 福島県ふたば未来学園
- カナダ・トロント大学付属学校(カナダ)
- GEG Himeji、姫路市荒川小学校
- 戸田市立芦原小学校
- 西南学院大学児童教育学科
- 広島市立大学
- 元YMCA学院高等学校、現大阪大谷大学谷大学
- 福島県立郡山高等学校
- 福島県立あさか開成高等学校
- チェコ・プラハ日本人学校
- フランス・サンジョゼフ校日本セクション
- ドイツ・デュッセルドルフ・バイリンガル日本語補習校

- 小田原市立新玉小学校
- 北海道教育大学大学院
- 北海道武蔵女子短期大学

研究者

- 奈須正裕さん(上智大学 総合人間科学部教育学科 教授)
- 無藤 隆さん(白梅学園大学名誉教授。国立教育政策研究所上級フェロー)
- 鬼塚良太郎さん(九州龍谷短期大学 保育学科 教授)
- 林大介さん(浦和大学 社会学部 現代社会学科 准教授・子どもの権利条約ネットワーク 事務局長)

行政

- 大野照子さん(文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室 課長補佐)
- 加賀大資さん(こども家庭庁成育局成育環境課 居場所づくり専門官)
- 角田毅弘さん (群馬県教育委員会事務局 総務課 学びのイノベーション戦略室長)
- 岩岡寛人さん (前鎌倉市教育委員会 教育長／文部科学省初等中等教育局教育課程課 学校教育官)
- 横山直さん 政策研究大学院大学教授(内閣府から派遣)／元OECD経済局エコノミスト
- 北山浩士さん(文部科学省大臣官房国際課長)

他

- 占部まりさん 内科医／宇沢国際学館代表取締役

OECDプロジェクト無限大: 日本生徒企画運営チーム

- 竹内陽渚さん(日本OECD共同研究員、広島市立大学)
- 森蒼太さん(Global Indian International School)
- 柏木花音さん(北海道富川高等学校)
- 田澤実結さん(群馬県立前橋東高等学校)
- 國分悠衣さん(福島県立郡山高等学校)
- 矢森美咲さん(福島県立あさか開成高校)
- 山内悠喜さん(Global Indian International School)
- Bunnyさん (高校生)

以上

【お問合せ】東京学芸大学 日本OECD共同研究事務局

Email: collective@u-gakugei.ac.jp

(別紙)

■自律分散型で実施されたワークショップ

資料等はプロジェクトウェブサイトを参照: <https://gakugei-asobiba.org/202403workshop>

日程	時間(日本時間)	名称(日本語)	内容	開催形態	言語	collective impact のための共創パートナー	参考
3月2日 (土)	13:30 ～ 16:00	高校探究プロジェクト シンポジウム 「瞳輝く学びの実装化」	高校探究プロジェクトは、あとに残る学び、充実感のある学びを実現してほしいと願う生徒や実現したいと思う先生方と出会い、共創してきた2年間。他方で、それぞれの学校や先生の中で「やるべきこと」とその優先順	オンライン	日本語	東京学芸大学 高校探究プロジェクト	報告記事

			<p>位が固定化してしまっている現状をあらためて目の当たりにした2年間でもありました。高校の新たな「当たり前」にしたいことを一緒に探り、次なる一歩につなげたいと考えています。</p> <p>参加者数 対面10名、オンライン165名</p>				
3月2日 (土)	12:50～ 15:30	災害時のこどもの居場所シンポジウム	<p>災害時の子どもの居場所はどうあるべきか。2024年1月1日に発生した能登半島地震への対応や昨年末に閣議決定されたこどもの居場所指針を踏まえつつ、中高生時代に東日本大震災で被災をした若者・子育て世代の語りから、東北から発信します。「こどもの居場所観アップデート」*「災害における緊急対応の体制・仕組みアップデート」*「被災時における教育復興支援」を目指します。</p> <p>参加者数 対面37名、オンライン参加18名</p>	ハイブリッド 対面会場: 仙台 レイン ボーハウス	日本語	特定非営利活動法人災害時こどものこころと居場所サポート	報告記事
3月2日 (土)	15:00～ 17:00	体育学会WS: 体育の価値観をアップデート	<p>OECDが他教科に先駆け実施した体育に関する国際調査の成果が、2023年に「保健体育教育の未来をつくる」として翻訳出版されました。本ワークショップは、この調査の内容を広く国内の関係者に周知し、今後の保健体育教育の未来について多くの関係者と対話し、体育への価値観をアップデートすることを目指します。</p> <p>参加者数 オンライン120名</p>	オンライン	日本語	公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構、日本体育大学	関連記事 報告記事1 報告記事2
3月6日 (水)	14:00～ 17:20	OECD Education2030が示唆する未来の幼児教育・保育	<p>2030年の幼児教育・保育について考え、保育観・幼児教育観そのものの価値観のアップデートを目指します。</p> <p>対面参加140名</p>	対面会場: 東京アルカディア 市ヶ谷私学会館	日本語	全日本私立幼稚園連合会 こどもがまんなかPROJECT 認定こども園委員会	
3月6日 (水)	TZ1 17:00～ 19:00 TZ2 25:00～ 27:00	MindShifts in Teacher Initial Education and Teacher Professional Development in the Digital Era	<p>OECD Education 2030 TWG2(教師教育グループ)メンバーが、テーマに沿った内容で対話します。</p> <p>Timezone1: 41か国・地域から72名が参加 Timezone2: 37か国・地域から56名が参加</p>	オンライン	英語	OECD Education 2030 TWG2(教師教育)グループ	

3/9 (土)	16:00-18:00	『日本の教育とウェルビーイングの未来について考えるシンポジウム』	OECDラーニングコンパスとウェルビーイングをテーマに、OECD EDUCATION2030の認知度をアップするとともに、「新しい教育の未来を描く〜ウェルビーイングが実現した教育に向けて〜」「社会観アップデート」を目指したワークショップ。 参加者数 オンライン140名	オンライン	日本語	「日本の教育とウェルビーイングの未来について考えるシンポジウム」実行委員	
3月10日 (日)	10:00～18:00	北海道あそび座による『みんなでつくるをたのしもう』	OECD Education2030「プロジェクト無限大」や日本OECD共同研究「壁のないあそび場」に参加する北海道の生徒・教師・関係者が、自主的に集まり、未来の教育をインクルーシブな観点から対話する。ユニバーサルデザインの教室などについてもここまでの探究内容を披露。様々な「つくる観のアップデート」を目指します。 参加者数 対面36名、オンライン5名	対面会場:北海道武蔵女子短期大学、一部オンライン	日本語	北海道あそび座	報告記事
3月10日 (日)	17:00～20:00	『言葉の色を混ぜてみよう！言葉/会話/対話が変わると自分も変わる?!』	子どもの権利条約批准から30年の年に、子どもの声を聴き、大人と子どもが対等なパートナーとなるための対話について体験します。研修観、対話の価値観、自分の見方・考え方のアップデートを目指します。 参加者数 オンライン19名	オンライン	日本語	津屋崎ランチ	
3月13日 (水)	17:30～19:30	AI & the complexity of data ethics in education	OECD Education 2030 FG2B(社会パートナーグループ)メンバーが、テーマに沿った内容で対話します。 38か国・地域から112名が参加	オンライン	英語	OECD Education 2030 FG2B(社会パートナーグループ)	
3月15日 (金)	18:00～20:00	日本OECD共同研究メインワークショップ～国際連帯の中のラーニング&ティーチングコンパス OECD Teaching and School compass in a VUCA world with Andreas Schleicher	ウクライナ・トルコ・日本の3か国における人災や自然災害の中で、人はどのように生き、また、学校ではどのように学びを止めずに進めているかについて、生徒および教員の声を聴き、災害の中における教育を通じた国際連帯の取り組みを共有。国際連帯のためにウクライナ、日本、トルコを支援するコミュニティの一員であると実感できる場を目指し、世界共通の課題を自分事として考える機会を創出した。 ウクライナ、トルコを含む世界28か国・地域から、142名が参加	ハイブリッド 会場:国連大学レセプションホール	英語・日本語 (同時通訳)	第25小学校(ウクライナ) 泉大津市立小津中学校(日本) 大分県立大分東高等学校(日本) ニメット・ファフリ・エクスズ職業技術アカトリア高等学校(トルコ) 石川県立能登高等学校 石川県立輪島高等学校 他	報告記事

3月 16日 (土)	9:30 ～ 12:00	教師が創る、教師のための、中高の先生のためのワークショップ —カナダと日本の保幼小の実践から学ぶ	昨年8月に実施したWSの発展形として、カナダトロントの幼児による探究や、日本の小学校の実践から、中学・高校の先生方が、本来の探究の学びの楽しさを学ぶ。 このWSは、有志の教師による、教師のための研修ワークショップであり、教員研修のアップデートを目指しました。 参加者数 オンライン60名	オンライン	日本語・一部英語(通訳あり)	神戸親和大学 カナダトロント大学 戸田市立芦原小学校 西南学院大学 臼杵市すみれこども園 など	報告記事
3月 17日 (日)	18:00 ～ 20:00	<i>Student teachers' views on the future-oriented teacher education curriculum</i>	OECD Education 2030 FG2C(教師を目指す学生・院生グループ)が、学校内で生じている生徒と先生の間での思いのズレ(もやもや)について対話。海外・日本の学生ともに、間違っているとはいけない雰囲気があるなど同じもやもやを抱えていることを理解。現職の教師も交え、広い視野で考え対話を深めることができ、それをどのように活かしていくか考える場となった。 Japan, Romania、Israelの3か国から14名が参加	オンライン	英語	OECD Education 2030 FG2C(教師を目指す学生・院生グループ)』	チラシ
3月 18日 (月)	10:45 ～ 11:30	<i>Project Infinity Workshop I: Strengthening the ecosystem for student, teacher and school well-being</i>	OECD Education2030プロジェクト無限大(学校のウェルビーイングに向けて、異なる国の生徒・教師がパートナーとして国際共創するプロジェクト)の全体会議。日本から、小田原市立の小学校の小学4年生が、インドネシアの中学校と共創してきた学校のウェルビーイングについて発表。 China, Chinese Taipei, India, Indonesia, Japan, New Zealand 8か国・地域から50名が参加	オンライン	英語	OECD Education 2030 FG2A(教師グループ)+TWG4(実験校のハブグループ)	
3月 18日 (月)	16:00 ～ 18:00 (仮)	もしも教室にヤングケアラーの児童・生徒がいたら？新しい居場所のあり方	ヤングケアラーをはじめ様々な生徒像をアップデートし、新しい居場所の在り方を福祉と教育の壁を超えて考えます。「生徒像アップデート」「居場所観アップデート」を目指すワークショップ。 参加者数 オンライン30名	オンライン	日本語	こども若者支援のNPOなど	報告記事
3月 19日 (火)	18:00 ～ 20:00	<i>Induction session for newcomers and launch of OECD Framework alignment paper</i>	OECD Education 2030 TWG5(Engagementグループ)メンバーが、テーマに沿った内容で対話しました。 24か国・地域から36名が参加	オンライン	英語	OECD Education 2030TWG5(Engagement)グループ	
3月 20日 (水)	18:00-20:00	<i>Continued conversation on "Teaching Compass in the Age of generative AI"</i>	OECD Education 2030 TWG1(ティーチングコンパスグループ)メンバーが、テーマに沿った内容で対話しました。 31か国・地域から71名が参加	オンライン	英語	OECD Education 2030TWG1(ティーチングコンパスグループ)	

3月 22日 (金)	18:00 ～ 20:00 (仮)	社会共通資本としての教育—新たな教育投資を考える	教育を「社会共通資本」として今一度捉え直し、教育への投資(官民協働)や地域レベルでの国際化など、単なる教育実践ではなく、教育業界を超えた視点で、「国家間(教育観)アップデート」を目指すワークショップ。 参加者数 オンライン40名	オンライン	日本語	群馬県教育委員会 他	報告記事
3月 23日 (土)	10:00 ～ 16:00 予定	生徒企画運営:おさんぽしながら楽しく学ぶ! "見方"が変わると"世界"が変わる～苦手教科があってもいいじゃん?～	昨年12月に開催した教科の見方・考え方を見直すWSを、さらに広いメンバーと改めて問い直したWS。中高生たちが、大人と共創しながら、企画、運営しました。教科像、教科の見方・考え方、また生徒像のアップデートを目指しました。 参加者数 オンライン4名、対面15名	ハイブリッド	日本語	生徒企画運営チーム主催 壁のないあそび場:さんすう数学座協力	
3月 26日 (火)	18:00 ～ 20:00	<i>Blurred distinction between pedagogies and assessment in an AI-era education</i>	OECD Education 2030 TWG3(カリキュラム・指導法・評価グループ)メンバーが、テーマに沿った内容で対話しました。 36か国・地域から、43名が参加	オンライン	英語	OECD Education 2030 TWG3(カリキュラム・指導法・評価グループ)	
3月 27日 (水)	23:00 ～ 24:30	<i>Student well-being at School</i>	OECD Education 2030 FG3(生徒グループ)メンバーが、テーマに沿った内容で対話しました。 17か国・地域から、26名が参加	オンライン	英語	OECD Education 2030 FG3(生徒グループ)	
3月30日 (土)	17:00 ～ 19:00	ヨーロッパの在外教育施設で働く私たちが創る学びのネットワーク	在外教育施設の日本人教師の皆さんがコミュニティを形成し、対話を続けています。教師により教師のための教員研修ワークショップ第2弾。 参加者数 オンライン40名	オンライン	日本語	ブラハ日本人学 フランス・サンジョゼ フ校日本セクション ドイツ・デュッセルドルフ・バイリンガル 日本語補習校	

注) 申請書で、3/21に開催を検討していた教師になりたい院生・学生グループが企画するワークショップは、改めて開催内容・時期を見直すこととなりました。また、3/29に開催予定と記載していたMathematics for Digital Citizenship workshopは、4/9に日程が変更され、実施されました。